



## 能登の生き物調査速報とは？

2024年1月の能登半島地震と9月の豪雨により、能登の自然環境は大きな変化に直面しました。加えて、気温や海水温の上昇、冬季の寒波や豪雪など、気候変動の影響も年々顕著になっています。こうした環境変化の中で、生きものたちはどのように暮らしているのでしょうか。私たちは2023年から、能登半島沿岸の海を中心に、森・川・人里を含めた生物調査を続けてきました。2025年以降は全国の研究者と連携し、誰もが参加できる調査手法の確立と情報発信を通じて、生きものの記録と環境教育を進めています。

\*本調査は石川県庁や環境省、そして地元漁業組合などを通して調査に必要な許可等を得て実施しています。

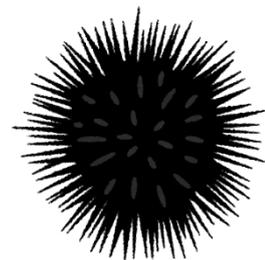
## 調査概要

### <調査日程>

2025年4月9～13日

### <調査メンバー> \*所属と身分は調査当時のもの

豊田 賢治 (広島大学・助教)  
山守 瑠奈 (京都大学・助教)  
岩崎 藍子 (東北大学・助教)  
角田 啓斗 (金沢大学／広島大学・修士2年)  
片倉 陽之介 (東北大学・修士1年)



## 1. 能登の岩礁生物モニタリング

岩崎藍子先生を中心としたチームメンバーが能登半島地震によって海岸隆起が生じた外浦側の岩礁で生物調査を実施しています。詳しくは「能登の岩礁生物モニタリングだより」

(<https://ddarchive.notosatoumi.com/category/monitoring>) を参照ください。

## 2. ウニ類の巣穴とか穿孔性生物の調査

2024年能登半島地震によって隆起した海岸では震災直後は逃げ遅れた貝類やウニ類がそのまま死亡していました。また、隆起した岩礁をよく観察すると生物が住んでいた巣穴がたくさん見つかります。日本海側は潮間帯がほとんど形成されないため、突如地上に出現した4 mに迫る隆起岩礁は地上にいながら潮下帯の様子を窺い知ることができる貴重な資料になります。このような状況を踏まえ、ウニの巣穴の共生生物などの研究を精力的に進められている京都大学の山守瑠奈先生に相談したところ、すぐさま能登まで足を運んでくださいました。当日は上記1の岩礁生物モニタリングに同行いただき、隆起岩礁の視察をしていただきました。

## 3. ヒラタブンブクの大量漂着

前回の2025年3月22-26日の遠征時と同様に海岸調査の際に能登町と珠洲市の海岸においてヒラタブンブクの死骸が大量に漂着しているのを発見しました。今回見つけた漂着個体もすでに白化して風化が進んでいたため漂着してからしばらく時間が経過していたようですが、何か海の異変の痕跡かもしれないと思い、みんなで手分けして海岸のほぼ全ての漂着個体を計数し、一部の標本は学生が持ち帰り種同定や形態特徴の精査を行なっています。



写真1：ヒラタブンブクの大量漂着(松波)

## 4. 深層水施設における深海プランクトン調査

能登町にある海洋深層水施設「あくあす能登」では、沖合の水深約300メートルから海水がくみ上げられています。このとき、目に見えないほど小さなプランクトンも一緒に運ばれてくるため、施設にはそれらを集めるフィルターが設置されています。今回も早朝に施設を訪れ、試料を採集しました。地上にいながら深い海の生きものを調べられる貴重な調査で、現在は詳しい分析を進めています。

## 5. 隆起砂浜の海浜昆虫調査

今回の遠征調査では、2024年能登半島地震で約4m隆起した輪島市門前の鹿磯海岸を対象に、海浜昆虫の調査を行いました。隆起によって新たに生まれた砂浜は、生きものの定着や遷移を調べる貴重な場です。陸生・水生昆虫を専門とする学生の協力を得て、2地点で昆虫を採集・比較した結果、砂浜に想像以上に多くの昆虫が生息していることが分かりました。前回の調査に引き続き、今回は鹿磯海岸のみで海浜昆虫の採集調査を実施しました。



写真2：海浜昆虫調査（鹿磯海岸）

## 6. 夜間の磯調査

私たちは昼夜に生物調査を行っています。震災後は調査地が減りましたが、姫地区の岸壁や小木の磯で継続中です。夜はヘッドライトと手網でヤドカリ類や海藻下の小型無脊椎動物を調べます。今回は磯での採集が初めてのメンバーもいたのですが、各々が楽しみながら採集調査を敢行しました。



写真3：カミクラゲ（姫）

### <謝辞>

深海プランクトン調査にあたっては、海洋深層水施設「あくあす能登」のご協力をいただきました。本研究は、黒潮生物研究所研究助成（代表：角田）、公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金（代表：豊田）、タカラ・ハーモニストファンド助成事業（代表：豊田）、ならびに2025年度金沢大学環日本海域環境研究センター共同研究（採択番号：25033、代表：豊田）の支援を受けて実施されました。

### <問い合わせ先>

我々の活動に関するお問い合わせは以下までお願いいたします。

- ・氏名：豊田賢治（広島大学大学院統合生命科学研究科・准教授）
- ・研究室 HP: <https://sites.google.com/site/toyotadaphnia/>
- ・Email: toyotak@hiroshima-u.ac.jp